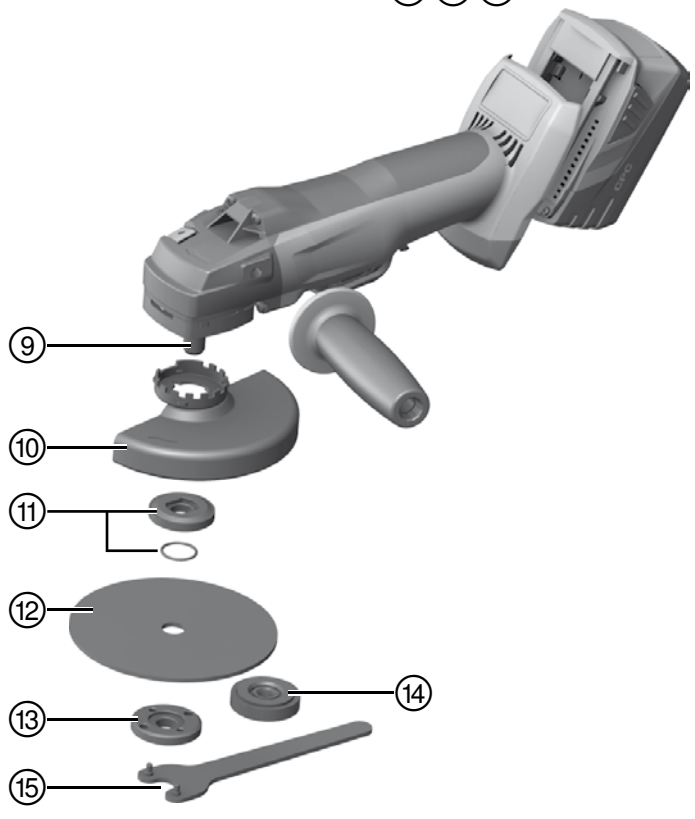
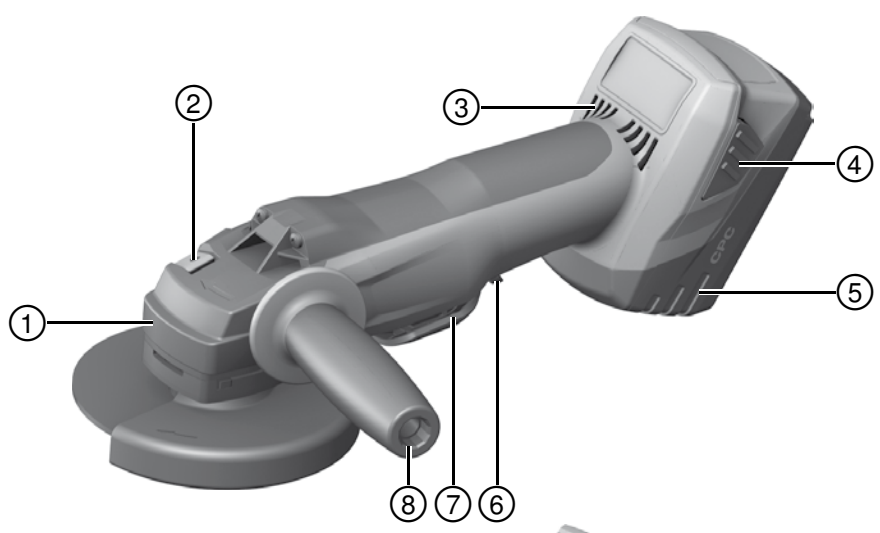


HILTI

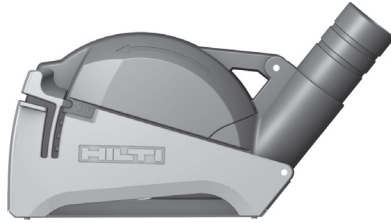
AG 125-A22

Operating instructions	en
Brugsanvisning	da
Bruksanvisning	sv
Bruksanvisning	no
Käyttöohje	fi
Инструкция по эксплуатации	ru
Ръководство за обслужване	bg
Instrucțiuni de utilizare	ro
Kullanma Talimatı	tr
دليل الاستعمال	ar
Lietošanas pamācība	lv
Instrukcija	lt
Kasutusjuhend	et
Пайдалану бойынша басшылық	kk
取扱説明書	ja
사용설명서	ko
操作說明書	zh
操作说明书	cn





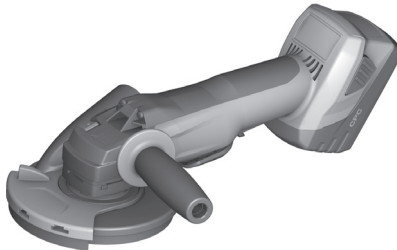
2



3



4



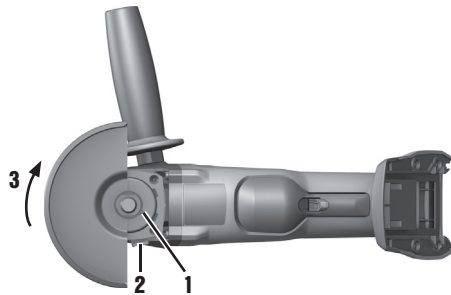
5



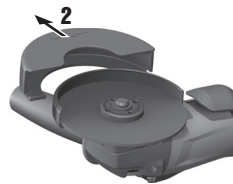
6



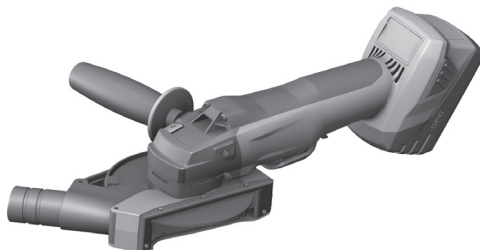
7



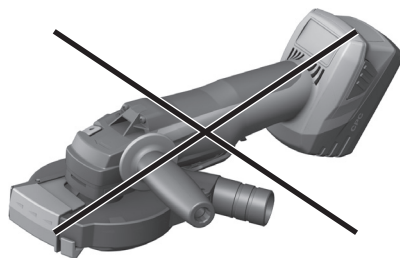
8



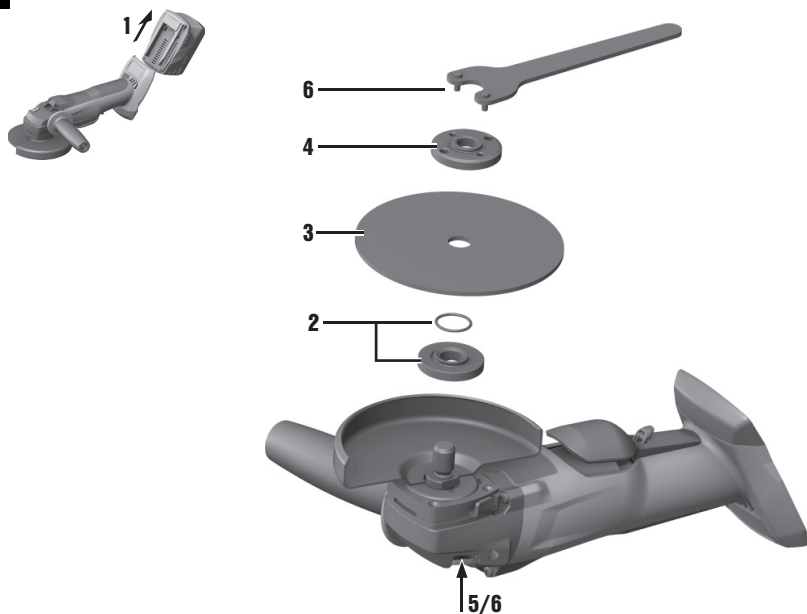
9



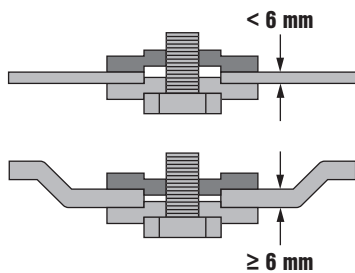
10



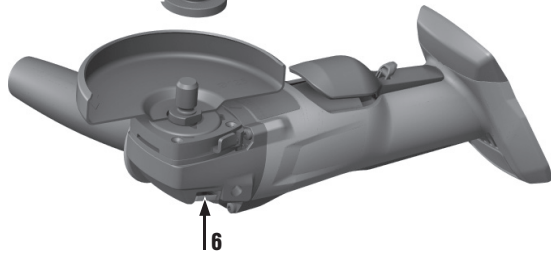
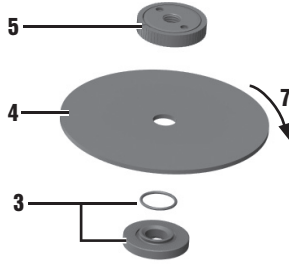
11



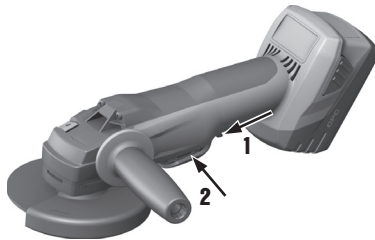
12



13



14



安全上のご注意

- ・火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ・ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- ・お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
- ・他の人に貸し出す場合は、いっしょに取扱説明書もお渡しください。
- ・ご使用上の注意事項は、「**△危険**」、「**△警告**」と「**△注意**」に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

△危険 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が大きい内容のご注意。

△警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

△注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、**△注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。


△危険

安全作業のために：

1. 専用の充電器や電池パックを使用してください。
 - ・他の充電器で電池パックを充電しないでください。
 - ・電池パックは、火への投入、加熱をしない。
 - ・電池パックに釘を刺したり、衝撃を与えたり、分解・改造をしない。
 - ・電池パックの端子部を金属などで接触させない。
 - － 電池パックを金属と一緒に工具箱や釘袋などに保管しない。
 - － 本体または充電器からはずした後は、電池パックにパックカバーを必ず取り付ける。
 - ・電池パックを火のそばや炎天下など高温の場所で充電・使用・保管しない。
 - ・指定した電池パック以外は充電しないでください。破裂して障害や損傷を及ぼす恐れがあります。

△警告

1. 正しく充電してください。
 - ・この充電器は定格表示してある電源でご使用ください。直流電源やエンジン発電機では使用しないでください。
 - ・温度が 0 °C 未満、または温度が 45 °C 以上では電池パックを充電しないでください。
 - ・電池パックは、換気の良い場所で充電してください。電池パックや充電器を充電中、布などで覆わないでください。
 - ・使用しない場合は、電源プラグを抜いてください。
2. 電池パックの端子間を短絡させないでください。
 - ・電池パックを金属と一緒に工具箱や釘袋などに保管しないでください。
3. 感電に注意してください。
 - ・ぬれた手で電源プラグに触れないでください。
4. 作業場の周囲状況も考慮してください。
 - ・充電工具、充電器、電池パックは、雨中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
 - ・作業場は十分に明るくしてください。
 - ・可燃性の液体やガスのある所で使用したり、充電しないでください。
5. 保護めがねを使用してください。
 - ・作業時は、保護めがねを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
6. 防音保護具を着用してください。
 - ・騒音の大きい作業では、耳栓、耳覆い（イヤマフ）などの防音保護具を着用してください。
7. 加工するものをしっかりと固定してください。
 - ・加工するものを固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手で充電工具を使用できます。
8. 次の場合は、充電工具のスイッチを切り、電池パックを本体から抜いてください。
 - ・使用しない、または、修理する場合。
 - ・刃物、ビット等の付属品を交換する場合。
 - ・その他危険が予想される場合。
9. 不意な始動は避けてください。
 - ・スイッチに指を掛けて運ばないでください。
10. 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。
 - ・本取扱説明書および弊社カタログに記載されている付属品やアタッチメント以外のものは使用しないでください。
11. 電池パックを火中に投入しないでください。
12. 電池パックの液が目に入ったら直ちにきれいな水で十分洗い、医師の治療を受けてください。
13. 使用時間が極端に短くなった電池パックは使用しないでください。

 注意

1. 作業場は、いつもきれいに保ってください。
 - ちがった場所や作業台は、事故の原因となります。
2. 子供を近づけないでください。
 - 作業者以外、充電工具や充電器のコードに触れさせないでください。
 - 作業者以外、作業場へ近づけないでください。
3. 使用しない場合は、きちんと保管してください。
 - 乾燥した場所で、子供の手の届かない安全な所または錠のかかる所に保管してください。
 - 充電工具や電池パックを、温度が 50 °C 以上に上がる可能性のある場所（金属の箱や夏の車内等）に保管しないでください。
4. 無理して使用しないでください。
 - 安全に能率よく作業するために、充電工具の能力に合った速さで作業してください。
 - モータがロックするような無理な使い方はしないでください。
5. 作業に合った充電工具を使用してください。
 - 小型の充電工具やアタッチメントは、大型の充電工具で行う作業には使用しないでください。
 - 指定された用途以外に使用しないでください。
6. きちんとした服装で作業してください。
 - だぶだぶの衣服やネックレス等の装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
 - 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めのついた履物の使用をお勧めします。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバー等で覆ってください。
7. 充電工具は、注意深く手入れをしてください。
 - 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。
 - 付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
 - 充電器のコードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い求めのお店に修理を依頼してください。
 - 延長コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
8. 充電器のコードを乱暴に扱わないでください。
 - コードを持って充電器を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
 - コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。
 - コードが踏まれたり、引っ掛けられたり、無理な力を受けて損傷することがないように充電する場所に注意してください。

9. 無理な姿勢で作業をしないでください。
 - 常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
10. 調節キーやレンチ等は、必ず取り外してください。
 - スイッチを入れる前に、調節に用いたキーやレンチ等の工具類が取り外してあることを確認してください。
11. 屋外使用に合った延長コードを使用してください。
 - 屋外で充電する場合、キャプタイヤコードまたはキャプタイヤケーブルの延長コードを使用してください。
12. 油断しないで十分注意して作業を行ってください。
 - 充電工具を使用する場合は、取扱方法、作業の仕方、周りの状況等十分注意して慎重に作業してください。
 - 常識を働かせてください。
 - 疲れている場合は、使用しないでください。
13. 損傷した部品がないか点検してください。
 - 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。
 - 可動部分の位置調整および締め付け状態、部品の破損、取付け状態、その他運転に影響を及ぼす全ての箇所に異常がないか確認してください。
 - 電源プラグやコードが損傷した充電器や、落したり、何らかの損傷を受けた充電器は使用しないでください。
 - 破損した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めのお店、または弊社営業担当に修理を依頼してください。
 - スイッチで始動および停止操作の出来ない充電工具は、使用しないでください。
14. 充電工具の修理は、専門店に依頼してください。
 - サービスマン以外の人は充電工具、充電器、電池パックを分解したり、修理・改造は行わないでください。
 - 充電工具が熱くなったり、異常に気付いた時は点検修理に出してください。
 - 本製品は、該当する安全規格に適合していますので改造しないでください。
 - 修理は、必ず弊社営業担当、お買い求めの販売店にお申し付けください。修理の知識や技術のない方が修理しますと、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因となります。

この取扱説明書は、大切に保管してください。

充電式ディスクグラインダ使用上のご注意

警告

1. ホイールガードを取付けて使用してください。
2. 使用するオフセット砥石は、周速度 80m/s で使用可能な正規の砥石を取付け、正しい使用面で研削してください。側面や上面では研削しないでください。
3. 砥石にひび、割れがないことを確認してから使用してください。
4. 使用中は、本体を確実に保持してください。
5. 水、研削液などは使用しないでください。
6. 上向き（定置形）にして使用しないでください。
7. 切断砥石以外の砥石での切断作業はしないでください。
8. 使用中は、工具類（DAG125-A22 など）や切り屑などに手や顔などを近づけないでください。
9. 使用中、機械の調子が悪かったり、異常音がしたときは直ちにスイッチを切って使用を中止し、弊社営業担当者またはヒルティ代理店・販売店に点検・修理を依頼してください。
10. 切断砥石を用いて切断作業をする場合は、切断砥石専用のホイールガード、及びフランジを取付けて使用してください。
11. 本体を作動させたまま床などに放置しないでください。
12. 誤って落としたり、ぶつけたときは、工具類（DAG125-A22 など）や本体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
13. 〔事業者の方へ〕砥石の取替え・試運転は、法・規則で定める特別教育を受けた人に行わせてください。
14. 研削粉は火花となって飛散するので、引火しやすいもの、傷付きやすいものは安全な場所に遠ざけてください。また、研削火花を直接手足などに当てないようにしてください。

注意

1. 工具類（DAG125-A22 など）や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
2. 新しい砥石を取付け、初めてスイッチを入れるときは、回転面から一時身体を避けてください。
3. 用途以外の刃物（丸の小刃、チップソーなど）での切断作業はしないでください。
4. 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確認してください。
5. 試運転を励行してください。
6. 作業直後の工具類（DAG125-A22 など）や材料、切り屑などは高温になっているので触れないでください。
7. 切断砥石は、水分や湿気のない乾燥した場所に保管してください。

「周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値」による振動障害予防対策について

厚生労働省 基発 0710 第 1 号及び第 2 号（平成 21 年 7 月 10 日付）により、振動障害予防のため、同基発に記載された振動工具の振動ばく露時間管理を推進する旨が通達されています。この通達に基づき、振動工具の使用者を管理する事業者は、電動工具メーカーが取扱説明書等でご提供する、周波数補正振動加速度実効値の 3 軸合成値（以下、3 軸合成値）と、「振動ばく露時間」から日振動ばく露量 A (8) を算出し、振動障害予防対策を講じる必要があります。

1. 3 軸合成値とは

使用する振動工具のすべての振動に対し、人体に影響を与える周波数帯域を抽出し、周波数ごとの補正を行って振動の強さとして表した振動値を、前後、左右、上下の 3 方向測定して合成した値。これが手腕への振動の強さを表します。

$$a = \text{「周波数補正振動加速度実効値の 3 軸合成値」} [m/s^2]$$

2. 日振動ばく露量 A (8) とは

日振動ばく露量 A (8) とは、1 日当りの振動ばく露量であり、工具の 3 軸合成値 $a[m/s^2]$ 及び 1 日当たりの振動ばく露時間 T [時間] から次式により算出できます。

$$\text{日振動ばく露量} : A(8) = a \times \sqrt{\frac{T}{8}} \quad [m/s^2]$$

(注 1) $a[m/s^2]$ は、使用する工具の 3 軸合成値を示します。

3 軸合成値は、本体と共に同梱されている取扱説明書やシート、又はメーカーのウェブサイト等で確認してください。例として「3 軸合成値：3.5m/s²」等と提供されております。

各メーカーが提供している 3 軸合成値は該当工具に定められた規格に基づき測定した数値で、実際の作業現場で測定した数値ではありません。日振動ばく露量管理のための参考としてください。

なお、各メーカーでは該当工具の 3 軸合成値を順次測定し公開しておりますが、現時点ではまだご提供できない製品もありますのでご承知願います。

(注 2) T [時間] は 1 日当たりの振動ばく露時間を示します。なお、振動ばく露時間は、該当作業の従事時間ではなく、実際に該当する工具を保持して運転作業しているときの時間です。また、日振動ばく露量 A (8) は、厚生労働省の下記ウェブサイトの「日振動ばく露量 A (8) の計算テーブル」でも求めることができます。

http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/roudou/gyousei/anken/dl/090820-2a_0004.pdf

3. 日振動ばく露量の管理について

1 項で計算した日振動ばく露量 A (8) にもとづき、以下の 1 から 3 のように管理してください。

1. 合計の日振動ばく露量 A (8) が、「日振動ばく露限界値」である 5.0m/s² を超えないように、振動ばく露時間の抑制（工具の使用時間を短くする）、低振動の工具の選定等を行う。
2. 合計の日振動ばく露量 A (8) が、日振動ばく露限界値 (5.0m/s²) を超えない場合であっても、「日振動ばく露対策値」である 2.5m/s² を超える場合は、振動ばく露時間の抑制、低振動の工具の選定等に努める。
3. 日振動ばく露限界値に対応した 1 日の振動ばく露時間（振動ばく露限界時間）が 2 時間を越える場合、当面、1 日の振動ばく露時間を 2 時間以内とする。

4. 工具の点検、整備について

使用前に試運転を行い、異常な振動がないかご確認ください。異常な振動が感じられる場合には、各メーカーのサービスセンター等に修理をご依頼願います。

5. その他

振動障害予防対策指針に関するご質問は、最寄りの都道府県労働局・労働基準監督署へお問合せください。また、厚生労働省の下記ウェブサイトでは、「振動障害の予防のために」等の資料が掲載されています。

<http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/roudou/gyousei/anken/090820-2.html>

- 以上 -

AG 125-A22 アングルグラインダー

ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

この取扱説明書は必ず工具と一緒に保管してください。

他の人が使用する場合には、本体と取扱説明書を一緒にお渡しください。

目次	頁
1 一般的な注意	194
2 安全上の注意	195
3 製品の説明	199
4 消耗品	200
5 製品仕様	201
6 ご使用前に	202
7 ご使用方法	203
8 手入れと保守	204
9 故障かな? と思った時	204
10 廃棄	205
11 本体に関するメーカー保証	205
12 EU 規格の準拠証明 (原本)	206

❶ この数字は該当図を示しています。図は取扱説明書の冒頭にあります。
この取扱説明書で「本体」と呼ばれる工具は、常にAG 125-A22 アングルグラインダーを指しています。

各部名称 ❶

- ❶ カバーリリースボタン
- ❷ スピンドルロックボタン
- ❸ 通気溝
- ❹ 追加機能 (充電状態インジケーター作動) 付きリリースボタン
- ❺ バッテリー
- ❻ スイッチオンロック
- ❼ ON/OFF スイッチ
- ❽ サイドハンドル振動ダンパー
- ❾ スピンドル
- ❿ 保護カバー
- ⓫ O リング付きテンションフランジ
- ⓬ 切断研磨ディスク / 粗削り研磨ディスク
- ⓭ クランピングナット
- ⓮ 「Kwik lock」 クイッククランピングナット (オプション)
- ⓯ テンションレンチ

ja

1 一般的な注意

1.1 安全に関する表示とその意味

危険

この表記は、重傷あるいは死亡事故につながる危険性がある場合に注意を促すために使われます。

警告事項

この表記は、重傷あるいは死亡事故につながる可能性がある場合に注意を促すために使われます。

注意

この表記は、軽傷あるいは所持物の損傷が発生する可能性がある場合に使われます。

注意事項

この表記は、本製品を効率良く取り扱うための注意事項や役に立つ情報を示す場合に使われます。

1.2 記号の説明と注意事項

警告表示



一般警告
事項

義務表示



保護メガネ
を着用して
ください



ご使用
前に取扱説
明書をお
読みくだ
さい

略号

n /min RPM Ø

回転数 毎分回転数 毎分回転数 直径

機種名・製造番号の表示箇所

機種名および製造番号は本体の銘板に表示されていません。当データを御自身の取扱説明書にメモ書きしておき、お問い合わせなどの必要な場合に引用してください。

機種名 : _____

2 安全上の注意

注意事項

2.1の章で言及されている安全上の注意事項は、準拠する規格が取扱説明書に記載するように定めている電動工具に関するすべての一般安全注意事項を含んでいます。したがって、この取扱説明書で説明する機器には関係のない注意事項が含まれていることもあります。

2.1 電動工具の一般安全注意事項

a) 警告事項

安全上の注意および指示事項をすべてお読みください。安全上の注意および指示事項に従わない場合、感電、火災、重度のけがをまねく恐れがあります。安全上の注意および指示事項が書かれた説明書はすべて大切に保管してください。安全上の注意で使用する用語「電動工具」とは、お手持ちの電動ツール（電源コード使用）およびバッテリーツール（コードレス）を指します。

2.1.1 作業環境に関する安全

- a) 作業場はきれいに保ち、十分に明るくしてください。ちらかった暗い場所での作業は事故を起こす恐れがあります。
- b) 爆発の危険性のある環境（可燃性液体、ガスおよび粉じんのある場所）では電動工具を使用しないでください。電動工具から火花が飛散し、粉じんや揮発性ガスに引火する恐れがあります。
- c) 電動工具の使用で、子供や無関係者を作業場へ近づけないでください。作業中に気がそらされると、本体のコントロールを失ってしまう恐れがあります。

2.1.2 電気に関する安全注意事項

- a) 電動工具の接続プラグは電源コンセントにきちんと適合しなければなりません。プラグは絶対に変更しないでください。アースした電動工具と一緒にアダプタープラグを使用しないでください。オリジナルのプラグと適切なコンセントを使用することにより、感電の危険を小さくすることができます。
- b) パイプ、ラジエーター、電子レンジ、冷蔵庫などのアースされた面に体の一部が触れないようにしてください。体が触れると感電の危険が大きくなります。
- c) 電動工具を雨や湿気から保護してください。電動工具に水が浸入すると、感電の危険が大きくなります。
- d) 電動工具を持ち運んだり、吊り下げたり、コンセントからプラグを抜いたりするときは、必ず本体を持ち、電源コードを持ったり引っ張ったりしないでください。電源コードを火気、オイル、鋭利な刃物、本体の可動部に触れる場所に置かないでください。コードが損傷したり絡まったりしていると、感電の危険が大きくなります。
- e) 屋外工事の場合には、屋外専用の延長コードのみを使用してください。屋外専用の延長コードを使用すると、感電の危険が小さくなります。

- f) 湿った場所で電動工具を作動させる必要がある場合は、漏電遮断機を使用してください。漏電遮断機を使用すると、感電の危険が小さくなります。

2.1.3 作業者に関する安全

- a) 電動工具を使用の際には、油断せずに十分注意し、常識をもった作業をおこなってください。疲れている場合、薬物、医薬品服用およびアルコール飲用による影響下にある場合には電動工具を使用しないでください。電動工具使用中の一瞬の不注意が重傷の原因となることがあります。
- b) 作業保護具および保護メガネを常に着用してください。けがに備え、電動工具使用状況に応じた粉じんマスク、耐滑性の安全靴、ヘルメット、耳栓などの作業保護具を使用してください。
- c) 電動工具の不意な始動は避けてください。電動工具を電源および/またはバッテリーに接続する前や本体を持ち上げたり運んだりする前に、本体がオフになっていることを必ず確認してください。オン/オフスイッチが入っている状態で電動工具のスイッチに指を掛けたまま運んだり、電源に接続したりすると、事故の原因となる恐れがあります。
- d) 電動工具のスイッチを入れる前に、必ず調節キーやレンチを取り外してください。調節キーやレンチが本体の回転部に装着されたままでは、けがの原因となる恐れがあります。
- e) 作業中に不安定な姿勢をとらないでください。足を安定させ、常にバランスを保つようにしてください。これにより、万一電動工具が異常状況に陥った場合にも、適切な対応が可能となります。
- f) 作業に適した作業着を着用してください。だぶだぶの衣服や装身具を着用しないでください。髪、衣服、手袋を本体の可動部に近づけないでください。だぶだぶの衣服、装身具、長い髪が可動部に巻き込まれる恐れがあります。
- g) 吸じんシステムの接続が可能な場合には、これらのシステムが適切に接続、使用されていることを確認してください。吸じんシステムを利用することにより、粉じん公害を防げます。

2.1.4 電動工具の使用および取扱い

- a) 無理のある使用を避けてください。作業用途に適した電動工具を使用してください。適切な電動工具の使用により、効率よく、スムーズかつ安全な作業が行えます。
- b) スイッチに支障がある場合には、電動工具を使用しないでください。スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は危険ですので、修理が必要です。
- c) 本体の設定やアクセサリの交換を行う前や本体を保管する前には電源プラグをコンセントから抜くか、バッテリーを取り外してください。この安全処置により、電動工具の不意の始動を防止することができます。

- d) 電動工具をご使用にならない場合には、子供の手の届かない場所に保管してください。電動工具に関する知識のない方、本説明書をお読みでない方による本体のご使用はお避けください。未経験者による電動工具の使用は危険です。
- e) 電動工具は慎重に手入れしてください。可動部分が引っ掛かりなく正常に作動しているか、電動工具の運転に影響を及ぼす各部分が破損・損傷していないかを確認してください。電動工具を再度ご使用になる前に、損傷部分の修理を依頼してください。発生事故の多くは保守管理の不十分な電動工具の使用が原因となっています。
- f) 先端工具をきれいに保ってください。お手入れのゆかきと定期的先端工具を使用すると、作業が簡単かつ、スムーズになります。
- g) 電動工具、アクセサリ、先端工具などは本説明書内の指示に従って使用してください。この際、作業環境および用途に関してもよくご注意ください。指定された用途以外に電動工具を使用すると危険な状況をまねく恐れがあります。

2.1.5 バッテリーの使用および取扱い

- a) バッテリーを充電する場合は、必ずメーカー推奨の充電器を使用してください。特定タイプのバッテリー専用の充電器を他のバッテリーに使用すると、火災の恐れがあります。
- b) 指定されたバッテリーのみを電動工具に使用してください。指定以外のバッテリーを使用すると、負傷や火災の恐れがあります。
- c) 使用しないバッテリーの近くに、事務用クリップ、硬貨、キー、釘、ネジ、その他の小さな金属片を置かないでください。電気接点の短絡が起こることがあります。バッテリーの電気接点間が短絡すると、火傷や火災が発生する危険があります。
- d) バッテリーが正常でないと、液漏れが発生することがあります。その場合、漏れた液には触れないでください。もしも触れてしまった場合は、水で洗い流してください。液体が眼に入った場合は、水で洗い流してから医師の診察を受けてください。流出したバッテリー液により、皮膚が刺激を受けたり火傷を負う恐れがあります。

2.1.6 サービス

- a) 電動工具の修理は必ず認定サービスセンターにお申し付けください。また、必ず純正部品を使用してください。これにより電動工具の安全性が確実に維持されます。

2.2 研磨、紙やすり研磨、ファイアブラシを使用した作業、および切断研磨に共通する安全上の注意

- a) この電動工具はグラインダーおよびフリクションソーとして使用することができます。本体に関するすべての安全上の注意、注意事項、図、データに注意してください。以下の注意事項を守らないと、感電、火災、重大な怪我の恐れがあります。
- b) この電動工具は紙やすり研磨、ファイアブラシを使用した作業やつや出しには適しません。電動工具の用途以外の使用は危険な状況をまねき、けがの原因となることがあります。
- c) この電動工具用としてメーカーから指定および推奨されていないアクセサリは、使用しないでくだ

い。そのようなアクセサリはお使いの電動工具に単に固定できるだけで、安全な使用は保証されません。

- d) 先端工具の許容回転数は、電動工具上に記載された最高回転数よりも高くなければなりません。許容回転数よりも速く回転するアクセサリは、破損あるいは外れて飛び回る恐れがあります。
- e) 先端工具の外径と厚さは電動工具の仕様に対応するものでなければなりません。間違ったサイズ先端工具は十分に絶縁または制御できません。
- f) ネジ式インサート付きの先端工具は、研磨スピンドルのネジに厳密に適合したものでなければなりません。フランジにより取り付ける先端工具の場合は、先端工具の穴の直径がフランジの取付け部直径に適合している必要があります。電動工具に確実に固定されていない先端工具は、回転が不安定になり、非常に激しい振動を起こして制御不能に陥る恐れがあります。
- g) 損傷した先端工具は使用しないでください。先端工具を使用する前には毎回、研磨ディスクに剥がれや亀裂がないか、研磨ホイールに亀裂、摩耗、激しい損耗がないか、ファイアブラシに緩みや折れたワイアがないかをチェックしてください。電動工具または先端工具を落とした場合は、損傷がないかを点検し、損傷のない先端工具を使用してください。先端工具の点検および取り付け後は、作業者やその他の人間が先端工具の回転エリアに入らないようにして、本体を最高回転数で1分間作動させてください。先端工具に損傷がある場合は、たいていこのテスト時間内に先端工具が折れます。
- h) 個人保護用具を着用してください。使用状況に応じて、ヘルメット、保護メガネを着用してください。有効な場合は、防じんマスク、耳栓、保護手袋、作業材料の細かな剥離片や破片から身体を保護する特殊エプロンを着用してください。さまざまな使用状況において異物の飛散が生じます。飛散する異物から目を保護してください。防じんマスクは、作業時に発生する粉じんを捕集するものでなくてはなりません。長時間大きな騒音にさらされていると、聴覚に悪影響が出る恐れがあります。
- i) 作業者以外の人は作業場から安全な距離だけ遠ざけてください。関係者は全員、作業場で個人保護用具を着用しなければなりません。作業材料や折れた先端工具の破片が飛散して、作業場外の人たちにもけがを負わせる恐れがあります。
- j) 作業の実施に伴い先端工具が隠れている電線に接触する可能性がある場合は、電動工具を必ず絶縁されたグリップ面で保持するようにしてください。通電しているケーブルと接触すると、本体の金属部分にも電圧がかかり、感電の危険があります。
- k) 回転する先端工具から電源コードを遠ざけてください。万一本体が制御不能になった場合、電源コードが切断されたり巻き込まれたりして、回転する先端工具で手や腕を負傷する危険があります。
- l) 必ず電動工具が完全に停止してから電動工具を置いてください。電動工具を置いたときに先端工具が回転していると、電動工具が制御不能に陥る恐れがあります。
- m) 電動工具を身体の脇に保持している間は本体を作動させないでください。回転する先端工具に衣服

が接触すると、衣服が巻き込まれて先端工具が身体に食い込む危険があります。

- n) 電動工具の通気溝は定期的に清掃してください。モーターブローが埃をハウジング内に引き込んで金属粉じんが大量に堆積すると、電気的な危険が発生する恐れがあります。
- o) 可燃性の母材の近くで電動工具を使用しないでください。可燃性液体に火花が飛んで燃える可能性があります。
- p) 冷却液が必要な先端工具は使用しないでください。水やその他の冷却液を使用すると、感電が発生する可能性があります。

2.3 反力とそれに対する安全上の注意

反力は、回転している研磨ディスク、ワイヤブラシなどの先端工具が噛んだりブロックされたりしたことに起因する突発的な反応です。先端剛具が噛んだりブロックされたりすると、回転している先端剛具が突然停止します。これにより、ブロックが生じた位置において電動工具が制御されることなく先端工具の回転方向と反対の方向に加速されます。

例えば、研磨ディスクが作業材料の中で噛んだりブロックされたりすると、作業材料に入り込んだ研磨ディスクの縁部が引っかかって破損したり、反動が起きたりすることがあります。その際は、ブロックされた箇所でのディスクの回転方向により、研磨ディスクが作業者の方向やその逆方向に動きます。この場合研磨ディスクが折損することもあります。

電動工具の取り扱いが正しくないと、反力が生じます。反力は、以下に示すような適切な予防措置を取ることで防止することができます。

- a) 電動工具はしっかりと支え、反力を受け止めることができるように身体と腕を構えます。高速作動時の反力や反発モーメントを最大限制御できるように、常に補助グリップ（装備されている場合）を使用してください。作業者は適切な安全処置を施すことにより反力を防止することができます。
- b) 手を回転する先端工具から遠ざけてください。反力が先端工具が手に向かって動く可能性があります。
- c) 反力が生じた際に電動工具が動く領域から身体を遠ざけてください。ブロックされた箇所では反力により、電動工具は研磨ディスクの動きと反対方向に動きます。
- d) 特に角部や鋭い縁部などの領域では慎重に作業してください。先端工具が作業材料から跳ね返ったり、噛んだりしないようにしてください。回転中の先端工具は、角部や鋭い縁部で、あるいはバウンドしたときに噛みやすくなります。その場合、電動工具が制御不能に陥ったり反力が生じたりします。
- e) チェーンソーまたは歯付きソーブレードを使用しないでください。この種の先端工具を使用すると、頻繁に反力が生じたり電動工具が制御不能になったりします。

2.4 研磨および切断研磨に特定の安全上の注意

- a) お使いの電動工具に許可された研磨ツールとその研磨ツール専用の保護カバーのみを使用してください。お使いの電動工具専用でない研磨ツールは、絶縁が十分でないことがあり安全ではありません。

- b) フック状の研磨ディスクは、研磨面が保護カバー端部の高さより突出しないように取り付けする必要があります。誤まって保護カバー端部の高さより突出して取り付けられた研磨ディスクは十分に保護できません。
- c) 保護カバーは確実に電動工具に取り付けられていて、最大限の安全性を確保するために、グラインダー本体の最も小さい部品を作業者が確認できるように調整されていなければなりません。保護カバーは、作業者を破片、誤ってグラインダー本体と接触すること、あるいは衣服に着火する可能性のある火花から保護します。
- d) 研磨ツールは必ず推奨された用途でのみ使用してください。例えば、カットオフディスクのサイド面で研磨しないでください。カットオフディスクはディスクの縁部で材料を切断するように規定されています。この研磨ツールへ横方向の力を加えるとツールが折れる可能性があります。
- e) 必ず選択した研磨ディスクに合ったサイズと形で、破損のないテンションフランジを使用してください。適切なフランジは研磨ディスクをしっかり支え、ディスク破損の危険を抑えます。カットオフディスク用のフランジは他の研磨ディスク用のフランジと異なることがあります。
- f) 大型電動工具の摩耗した研磨ディスクは使用しないでください。大型電動工具の研磨ディスクは小型電動工具の高回転数には適合しません。破損の恐れがあります。

2.5 切断研磨に特定のその他の安全上の注意

- a) カットオフディスクがブロックされたり、押し付けが強くなりすぎないようにしてください。過度に深い切断は行わないでください。カットオフディスクに過度な負荷がかかると、応力が強くなってディスクが曲がったりブロックされやすくなるため、反力やディスク破損が生じる可能性が高くなります。
- b) 回転中のカットオフディスクの前後領域から身体を離してください。カットオフディスクを作業材料から離す場合、回転するディスクにより反力を受けた電動工具が直接作業者に向かって跳ね返る危険があります。
- c) カットオフディスクが噛んだ場合や作業を中断する場合は、本体の電源をオフにして、ディスクが完全に停止するまで本体を保持してください。まだ回転しているカットオフディスクを切断箇所から取り出そうとしないでください。反力が生じる原因となります。ディスクが噛む場合は、その原因を突き止めて適切な処置を施してください。
- d) 電動工具が作業材料内にある間は電動工具のスイッチを再びオンにしないでください。カットオフディスクが最高回転数に達してから、切断を慎重に再開してください。この手順を守らないと、ディスクが引っかかって作業材料から飛び出たり、反力が生じることがあります。
- e) 噛んだカットオフディスクによる反力の危険を最小限に抑えるために、プレートや大型の作業材料にはサポートを施してください。大型の作業材料はそれ自身の重みでたわむことがあります。作業材料は切断箇所付近と縁部を両側で支える必要があります。
- f) 既存の壁やその他の見通しのきかない領域で「ブランジカット」を行う場合は特に注意してください

ja

い。押し込んだカットオフディスクはガス管、水道管、電気配線、その他の対象物に食い込んで反動を引き起こすことがあります。

2.6 その他の安全上の注意

2.6.1 作業者に関する安全

- a) 本体の加工や改造は許されません。
- b) 耳栓を着用してください。騒音により、聴覚に悪影響が出る恐れがあります。
- c) 本体を支えるときは、必ず両手でグリップを持ってください。グリップは乾いた清潔な状態に保ち、オイルやグリスを付着しないでください。
- d) 本体に集じん装置を取り付けずに作業をする場合、作業される方は防じんマスクを着用しなければなりません。
- e) 休憩を取って緊張をほぐし、指を動かして血の巡りを良くするように心がけてください。
- f) 回転部分には手を触れないでください。本体の電源は必ず作業場に入れてください。回転部分、特に回転している先端工具は負傷の原因となります。
- g) 本体は、体の弱い人が指示を受けずに使用するには向いていません。本体は子供の手が届かないところに保管してください。
- h) 含鉛塗料、特定の種類の木材、コンクリート / 石材、石英を含む岩石、鉱物および金属などの母材から生じた粉じんは、健康を害する恐れがあります。作業者や近くにいる人が粉じんに触れたり吸い込んだりすると、アレルギー反応や呼吸器疾患を起こす可能性があります。カシやブナ材などの特定の粉じんは、特に木材処理用の添加剤（クロム塩酸、木材保護剤）が使用されている場合、発ガン性があるとされています。アスベストが含まれる母材は、必ず専門家が取り扱うようにしてください。できるだけ集じん装置を使用してください。集じん効率を高めるには、適切な可動集じん装置を使用してください。必要に応じてそれぞれの粉じんに適した防塵マスクを着用してください。作業場の換気が十分配慮してください。処理する母材について、各国で効力を持つ規定を遵守してください。
- i) 本体使用中、作業者および現場で直近に居合わせる人々は保護メガネ、保護ヘルメット、耳栓、保護手袋および防じんマスクを着用しなければなりません。
- j) 本体が作動限界の超過あるいはバッテリーが空であることを検知すると、先端工具がモーターにより制御されなくなることがあります。

2.6.2 電動工具の慎重な取扱いおよび使用

- a) 研磨ディスクの保管および取り扱いはメーカーの指示に従い、細心の注意を払って行ってください。

- b) 電動工具は必ず保護カバーを付けて使用してください。
- c) 作業材料を固定します。作業材料を締め付ける時は、クランプあるいは万力を使用してください。この方が手で押さえるよりも確実であり、本体を両手で自由に操作することができます。
- d) カットオフ研磨ディスクを粗削り研磨に使用しないでください。
- e) 先端工具とフランジをしっかりと締め付けてください。先端工具またはフランジがしっかりと締め付けられていないと、スイッチオフの後、制動の際に先端工具が本体モーターによりスピンドルから外れる危険があります。

2.6.3 電気に関する安全注意事項

- a) 作業を開始する前に、作業場に埋設された電線、ガス管や水道管がないかを金属探知機などで調査してください。例えば、作業中に誤って先端工具が電線に触れると、本体の金属部分とケーブルが通電する可能性があります。この場合、感電による重大な事故が発生する危険があります。
- b) 導電性のある母材に対して作業を頻繁に行う場合は、定期的にヒルティサービセンターに本体の点検を依頼してください。本体表面に導電性のある粉じんや水分が付着すると、本体を損傷する恐れがあります。

2.6.4 バッテリーの慎重な取扱いおよび使用

- a) Li-Ion バッテリーの搬送、保管、作動には特別規定を守ってください。
- b) バッテリーは高温と火気を避けて保管してください。爆発の恐れがあります。
- c) バッテリーを分解したり、挟んだり、80 °C 以上に加熱したり、燃やしたりしないでください。これを守らないと、火災、爆発、腐食の危険があります。
- d) 損傷したバッテリー（例えば亀裂や破損箇所があったり、電気接点が曲がっていたり、押し戻されていたり、引き抜かれているバッテリー）は、充電することも、そのまま使用を続けることもできません。
- e) バッテリーがつかむことのできないほどに熱くなっている場合は、故障している可能性があります。本体を監視可能な火気のない場所に可燃性の資材から十分に距離をとって置き、冷ましてください。バッテリーを冷ました後、ヒルティサービセンターにご連絡ください。

2.6.5 作業場の安全確保

- a) 剥がし作業の場合には、作業側と反対の領域を保護してください。剥がれた部分が脱落、落下して他人を傷つける危険があります。
- b) 支持壁やその他の構造物への穴明け、特に鉄筋または鉄骨梁の除去は静力学に影響を及ぼします。作業を開始する前に、担当の静力学専門家や建築家、あるいは現場管理責任者に問い合わせてください。

3 製品の説明

3.1 正しい使用

本体は、金属および鉱物母材の切断研磨および粗削り研磨用アングルグラインダーです。

バッテリーを他の電気器具の電源用に使用しないでください。

金属の加工：必ず繊維強化合成樹脂の粗削り研磨ディスクまたは切断研磨ディスクとともに使用してください。

鉱物母材の表面に注意：切断研磨および分割には専用のカバー（DC-EX 125/5"-C）、粗削り研磨には専用のカバー（DG-EX 125/5"）を使用してください。

本体は乾式の研磨 / 切断のみに使用してください。

一般にコンクリートあるいは石材などの鉱物母材に対する作業には、適切なシステムにおいて集じんカバーを適切なヒルティ集じん機とともに使用されることをお勧めします。これによりユーザーを保護し、本体およびディスクの寿命を延ばすことができます。

健康を損なう恐れのある母材（アスベストなど）への加工は許されません。

各国の労働安全衛生法に従ってください。

けがの可能性を防ぐため、必ずヒルティ純正の、アクセサリーや先端工具のみを使用してください。

本体はプロ仕様で製作されており、本体の使用、保守、修理を行うのは、認定、訓練された人のみに限ります。これらの人は、遭遇し得る危険に関する情報を入手していなければなりません。本体および付属品の、使用方法を知らない者による誤使用、あるいは規定外使用は危険です。

3.2 本体標準セット構成部品：

- 1 本体
- 1 サイドハンドル
- 1 保護カバー
- 1 フロントカバー
- 1 テンションフランジ
- 1 クランピングナット
- 1 テンションレンチ
- 1 取扱説明書

注意事項

アクセサリー是最寄りのヒルティセンター、またはwww.hilti.comでご確認ください。

3.3 本体の作動に必要な追加品目

適切な推奨バッテリー（「製品仕様」の表をご覧ください）およびモデルシリーズ C 436 の適切な充電器。

3.4 温度感応本体保護

温度感応モーター保護は消費電流およびモーターの加熱をモニターして、本体を加熱から保護します。

接触圧が高すぎてモーターが過負荷になると、本体の出力が著しく低下するか、本体が動作を停止することがあります（動作停止は回避するべきです）。

過負荷が発生した場合は本体を負荷から解放し、約 30 秒間無負荷回転数で作動させてください。

3.5 DC-EX 125/5"-C コンパクトカバー切断作業用集じんカバー 2

鉱物母材の切断研磨用。

注意

このカバーによる金属の加工は禁止されています。

3.6 フロントカバー付き保護カバー 3

注意

金属母材を加工する際にストレート粗削り研磨ディスクを使用した粗削り研磨および切断研磨ディスクを使用した切断研磨を行う場合は、フロントカバー付き保護カバーを使用してください。

3.7 DG-EX 125/5" 研磨作業用集じんカバー 4

本体は、ダイヤモンド研磨ディスクを使用しての鉱物母材のあまり頻繁ではない研磨のみに適しています。

注意

このカバーによる金属の加工は禁止されています。

3.8 Li-Ion バッテリーの充電状態

Li-Ion バッテリーを使用する際には、リリースボタンを軽く押すと（抵抗が感じられる程度まで - ロック解除はしない）、充電状態を表示させることができます。バッテリー背面のインジケータは次の情報を提供します：

LED 点灯	LED 点滅	充電状態 C
LED 1、2、3、4	-	$C \geq 75\%$
LED 1、2、3	-	$50\% \leq C < 75\%$
LED 1、2	-	$25\% \leq C < 50\%$
LED 1	-	$10\% \leq C < 25\%$
-	LED 1	$C < 10\%$

注意事項

作業中および作業直後は、充電状態の読み取りは行えません。バッテリーの充電状態インジケータの LED が点滅している場合は、「故障かな? と思った時」の章の注意事項を確認してください。

4 消耗品

最大直径 125 mm、回転数 11000 min⁻¹、カット速度 80 m/sec、最大粗削り研磨ディスク厚さ 6.4 mm、最大切断研磨ディスク厚さ 2.5 mm 用のディスク。

ディスク	用途	略号	母材
アブレイシブ切断研磨ディスク	切断研磨、切込み	AC-D	金属
ダイヤモンド切断研磨ディスク	切断研磨、切込み	DC-D	鋇物
アブレイシブ粗削り研磨ディスク	粗削り研磨	AG-D、AF-D、AN-D	金属
ダイヤモンド粗削り研磨ディスク	粗削り研磨	DG-CW	鋇物

ディスクと装備の組合せ

項目	装備	AC-D	AG-D	AF-D	AN-D	DG-CW	DC-D
A	保護カバー	X	X	X	X	X	X
B	フロントカバー (A との組合せ)	X	-	-	-	-	X
C	表面カバー DG-EX 125/5"	-	-	-	-	X	-
D	コンパクトカバー DC-EX 125/5"-C (A との組合せ)	-	-	-	-	-	X
E	サイドハンドル	X	X	X	X	X	X
F	弓型ハンドル DC BG 125 (E に対するオプション)	X	X	X	X	X	X
G	クランピングナット	X	X	X	X	X	X
H	テンションフランジ	X	X	X	X	X	X
I	Kwick ロック (G に対するオプション)	X	X	X	X	-	X

5 製品仕様

技術データは予告なく変更されることがあります。

本体	AG 125-A22
定格電圧	21.6 V
回転数	9,500/min
最大ディスク直径	Ø 125 mm
重量 (EPTA プロシージャ 01/2003 に準拠)	2.7 kg

バッテリー	B 22/2.6 Li-Ion (01)	B 22/3.3 Li-Ion (01)
定格電圧	21.6 V	21.6 V
容量	2.6 Ah	3.3 Ah
エネルギー含量	56.16 Wh	71.28 Wh
重量	0.78 kg	0.78 kg

技術情報

駆動スピンドルネジ	M 14
スピンドルの長さ	22 mm

注意事項

本説明書に記載されているサウンドプレッシャー値および振動値は、規格に準拠した測定方法に基づいて測定したものです。電動工具を比較するのにご使用いただけます。曝露値の暫定的な予測にも適しています。記載されているデータは、電動工具の主要な使用方法に対する値です。電動工具を他の用途で使用したり、異なる先端工具を取り付けて使用したり、手入れや保守が十分でないまま使用した場合には、データが異なることがあります。このような相違により、作業時間全体で曝露値が著しく高くなる可能性があります。曝露値を正確に予測するためには、本体のスイッチをオフにしている時間や、本体が作動していても実際には使用していない時間も考慮しなければなりません。このような相違により、作業時間全体で曝露値が著しく低くなる可能性があります。作業者を騒音および/または振動による作用から保護するために、他にも安全対策を立ててください（例：電動工具およびの先端工具の手入れや保守、手を冷やさないようにする、作業手順の編成）。

騒音について (EN 60745-2-3 準拠) :

サウンドパワーレベル、 L_{WA}	94 dB (A)
サウンドプレッシャーレベル、 L_{pA}	83 dB (A)
定格騒音レベルに対する不確実性、K	3 dB (A)

振動について (EN 60745 準拠)

AG 125-A22 の 3 軸の振動値 (振動ベクトル合計)	EN 60745-2-3 に準拠
振動低減グリップを使用しての表面研磨、 $a_{h,AG}$	3.8 m/s ²
不確実性 (K)	1.5 m/s ²
追加情報	切断などの他の用途に使用した場合には、振動値がここに記載した値から変化する可能性があります。

ja

6 ご使用前に

6.1 バッテリーを装着する 5

注意

バッテリーを装着する前に、本体のスイッチがオフになっていること、スイッチオンロックが作動していることを確認してください。

注意

バッテリーを本体に装着する前に、バッテリーの電気接点と本体の電気接点に異物が入っていないか確認してください。

1. 注意バッテリーが正しく装着されていないと、作業中に落下することがあります。
注意バッテリーが落下してご自身あるいは他の方が怪我をする恐れがあります。
作業を開始する前にバッテリーが本体にしっかりと固定されていることを確認してください。

6.2 本体からバッテリーを取り出す 6

6.3 バッテリーの搬送および保管

注意

火災の危険。バッテリーは決して梱包していない状態で保管あるいは搬送しないでください。短絡による危険があります。

バッテリーを引いて、ロック位置（作業位置）から最初のロック位置（トランスポートロック位置）へ動かします。

バッテリーを輸送（トラック、鉄道、船舶あるいは航空機による輸送）する際は、輸送に関する各国および国際的な規定に注意してください。

6.4 サイドハンドルを取り付ける

サイドハンドルをいずれかのねじ込みブッシュにねじ込みます。

6.5 保護カバー

注意

取付け、分解、調整作業および不具合の除去の際には保護手袋を着用してください。

当該のカバーの取付け説明書をお読みください。

6.5.1 保護カバーの取付け 7

注意事項

保護カバーは、本体に対応した保護カバーのみを取り付けることができるようにするコーディングカムを備えています。保護カバーは、コーディングカムとともに本体のカバーホルダー内を動きます。

1. 保護カバーと本体の三角形のマークが互いに向かい合うように、保護カバーをスピンドルネックに乗せます。
2. 保護カバーをスピンドルネックに押し付けます、カバーリリースボタンを押します。

3. 保護カバーをロックされてカバーリリースボタンが元の位置に戻るまで、保護カバーを回します。

6.5.1.1 保護カバーの調整

カバーリリースボタンを押して、保護カバーを希望の方向にロックされるまで回します。

6.5.2 保護カバーの取り外し

カバーリリースボタンを押して保護カバーを抜き取ります。

6.5.3 フロントカバーの取り付けと取り外し 8

注意事項

フロントカバーを取り付けて作業する場合は、フロントカバーは保護カバーに差し込んでください。

1. 図に示したようにフロントカバーの閉じた側を標準保護カバーにロックするまで取り付けてください。
2. フロントカバーを取り外すには、フロントカバーのロックを開いて標準保護カバーからフロントカバーを引き抜きます。

6.5.4 DC-EX 1255" 切断カバーを位置決める 9 10

注意事項

いつでも ON/OFF スwitch を操作できることを確認してください。

6.6 先端工具を装着する / 取り外す

注意事項

切断性能または研磨性能の低下が認められるようになったら、ダイヤモンドディスクは直ちに交換する必要があります。一般的に、ダイヤモンドセグメントの高さが 2 mm 未満になったらダイヤモンドディスクを交換する必要があります。その他のタイプのディスクは、切断性能が明らかに低下した場合、あるいは作業中にアングルグラインダーの部品（ディスクを除く）が作業対象と接触した場合には直ちに交換する必要があります。アブレーションディスクは有効期限が切れたら交換する必要があります。

6.6.1 先端工具の装着 11 12

警告事項

先端工具とフランジをしっかりと締め付けてください。先端工具またはフランジがしっかりと締め付けられていないと、スイッチオフの後、制動の際に先端工具が本体モーターによりスピンドルから外れる危険があります。

1. 本体からバッテリーを抜き取ります。
2. 注意テンションフランジには O リングが 1 個充填されています。この O リングが欠落している場合または損傷している場合、テンションフランジを交換する必要があります。
テンションフランジを、緩みなく、回転しないように研磨スピンドルに取り付けます。
3. 先端工具を取り付けます。

- クランピングナットを装着した先端工具に合わせてしっかり締め付けます。 **12**
- 注意**スピンドルロックヘッドは必ず研磨スピンドルを停止した状態で操作してください。 そうしないと、ギア部の損傷あるいは先端工具が緩む恐れがあります。スピンドルロックボタンを押して、その状態を保ちます。
- テンションレンチでクランピングナットを締め付け、続いてスピンドルロックボタンを放してテンションレンチを取り外します。

6.6.2 先端工具の取り外し

- 本体からバッテリーを抜き取ります。
- スピンドルロックボタンを押して、その状態を保ちます。
- テンションレンチを取り付けて反時計方向に回してクランピングナットを緩めます。
- スピンドルロックボタンから指を離して先端工具を取り外します。

6.7 Kwik lock 付き先端工具を装着する / 取り外す

注意事項

クランピングナットの代わりに Kwik lock を使用することができます。これにより、工具を使わないで先端工具を交換できます。

注意

作業の際には Kwik lock クイッククランピングナットが母材と接触しないように注意してください。損傷した Kwik lock クイッククランピングナットは使用しないでください。

6.7.1 Kwik lock クイッククランピングナット付き先端工具の装着 **13**

注意事項

上面の矢印をインデックスマークの内側に合わせます。矢印をインデックスマークの内側に合わせないでクイ

ッククランピングナットを締め付けると、手で開くことができなくなります。この場合は、Kwik lock クイッククランピングナットをテンションレンチで緩めてください（パイレンチは使用しないでください）。

- 本体からバッテリーを抜き取ります。
- テンションフランジとクイッククランピングナットを清掃してください。
- 注意**テンションフランジには O リングが 1 個装着されています。この O リングが欠落している場合または損傷している場合、テンションフランジを交換する必要があります。テンションフランジを研磨スピンドルに取り付けます。
- 先端工具を取り付けます。
- 先端工具に接触するまで Kwik lock クイッククランピングナットをねじ込みます（ねじ込んだ状態で文字が見えます）。
- 注意**スピンドルロックヘッドは必ず研磨スピンドルを停止した状態で操作してください。 そうしないと、ギア部の損傷あるいは先端工具が緩む恐れがあります。スピンドルロックボタンを押して、その状態を保ちます。
- テンションレンチを使用してクランピングナットを締め付けるか、あるいは Kwik lock クイッククランピングナットがしっかりと締め付けられるまで先端工具を手で力を入れて時計方向へ回し、続いてスピンドルロックボタンから手を放し、テンションレンチを使用した場合これを取り外します。

6.7.2 Kwik lock クイッククランピングナット付き先端工具の取り外し

- 本体からバッテリーを抜き取ります。
- ノッチ付きリングを反時計方向回してクイッククランピングナットを緩めます（固いクイッククランピングナットはフェイスレンチを使用して緩めます。パイレンチは使用しないでください）。

ja

7 ご使用方法

警告事項

本体は常にサイドハンドル（あるいはオプションの弓型ハンドル）を付けた状態でご使用ください。

注意

先端工具は使用することで高温になります。先端工具の交換時には保護手袋を着用してください。

7.1 粗削り研磨

注意

切断研磨ディスクは決して粗削り研磨に使用しないでください。

粗削りの場合はアブローチ角度を 5°...30° にすると、最良の成果が得られます。適度な圧力をかけながら本体を前後に動かします。これにより作業材料が熱くなりすぎず、変色や溝が生じません。

7.2 切断研磨

切断研磨の場合は、適度に送りながら作業し、本体または切断研磨ディスクを傾けないようにします（切断面に対して約 90°）。成形材および小型の角パイプは、接触する断面をできるだけ小さくすることによって最も効率よく切断することができます。

7.3 スイッチオンロック付き ON/OFF スイッチ **14**

スイッチオンロック付きの ON/OFF スイッチによりスイッチ機能をチェックし、本体が意図せず始動するのを防ぐことができます。

- ON/OFF スイッチをロック解除するにはスイッチオンロックを前方へ押し、続いて ON/OFF スイッチを完全に押します。
- ON/OFF スイッチから手を放すと、スイッチオンロックは自動的にロック位置へ戻ります。

8 手入れと保守

警告事項

本体の電気系統部分の修理は訓練された修理スペシャリストのみができます。

注意

本体が不意に始動することがないよう、清掃作業を始める前にバッテリーを取り外してください。

8.1 本体の手入れ

危険

使用条件によっては、金属の加工時に導電性の粉じんが本体内部に引き込まれることがあります。この場合、本体の絶縁性が損なわれる恐れがあります。そのような場合には、固定式の集じん装置を使用して通気溝を頻繁に清掃することをお勧めします。

通気溝が覆われた状態で本体を使用しないでください。通気溝を定期的に乾いたブラシを使用して注意深く掃除してください。本体内部に異物が入らないようにしてください。モーターブローが埃をハウジング内に引き込んで粉じん（金属、炭素繊維など）が大量に堆積すると、電気的な危険が発生する恐れがあります。定期的に、少し湿した布で本体表面を拭いてください。スプレーやスチームあるいは流水などによる清掃は避けてください。電気上の安全面に悪影響が出る可能性があります。常に、本体グリップ部分がオイルやグリスで汚れないようにしてください。洗剤、磨き粉

等のシリコンを含んだ清掃用具は使用しないでください。

注意事項

導電性のある母材（金属、炭素繊維など）で頻繁に作業する場合には、保守間隔を短くする必要が生じることがあります。作業場に関するお客様ご自身による危険分析に注意してください。

8.2 Li-Ion バッテリーの手入れ

注意事項

低温ではバッテリーの力が低下します。

注意事項

バッテリーを使用しない場合は、できるだけ涼しくて乾燥した場所に保管してください。

バッテリーを最大寿命で使用できるように、バッテリーのパワーが著しく低下したら直ちに放電を中止してください。

注意事項

- 作動を続けると、セルの損傷を防ぐために放電が自動的に終了します。
- バッテリーは Li-Ion バッテリー用に許可されたヒルティ充電器で充電してください。

8.3 手入れと保守を行った後の点検

手入れ、保守の作業を済ませた後は、全ての安全機構が装着され、正常に作動していることを確認しなければなりません。

ja

9 故障かな？と思った時

症状	考えられる原因	処置
バッテリーの消耗が通常よりも早い。	周囲温度が低すぎる。	バッテリーをゆっくり室温まで暖める。
バッテリーが「カチッ」と音がするまでロックされない。	バッテリーのロックノッチが汚れている。	ロックノッチを清掃して、バッテリーをロックする。問題が再発する場合は、ヒルティサービスセンターに連絡する。
LED 1 点滅。	バッテリーが放電している。	バッテリーを充電する。
本体が作動せず、LED 1 が点滅する。	本体に負荷がかかり過ぎている（適用基準を超えている）。	用途に合った工具を選択してください。
本体が作動せず、LED 1 が点滅する。	バッテリーが放電している。	バッテリーを交換し、空のバッテリーを充電する。
本体が作動せず、4 個すべての LED が点滅。	バッテリーの温度が高すぎる、または低すぎる。	バッテリーを推奨運転温度まで冷やす / 暖める。
本体が作動せず、4 個すべての LED が点滅。	本体に短期的に過負荷がかかっている。	スイッチを放して、押し直します。
本体あるいはバッテリーが熱くなる。	過熱保護が作動した。	本体を冷やす。
本体あるいはバッテリーが熱くなる。	電気的故障。	本体の電源を直ちに切ってバッテリーを取り外し、ヒルティサービスセンターに連絡する。
	本体に負荷がかかり過ぎている（適用基準を超えている）。	用途に合った工具を選択する。

症状	考えられる原因	処置
本体機能がフルに発揮されない。	容量の十分でないバッテリーが装着されている。	容量が 2.6 Ah を上回るバッテリーを使用してください。
制動機能なし	バッテリーが放電している。 本体に負荷がかかり過ぎている（適用基準を超えている）。	バッテリーを充電する。 本体をオフにして再びオンにしてください。

10 廃棄

注意

装備を誤った方法で廃棄すると、次のような危険があります：プラスチック部分の燃焼時には人体に有害な有毒ガスが発生します。電池は損傷したりあるいは激しく加熱されると爆発し、毒害、火傷、腐食または環境汚染の危険があります。廃棄について十分な注意を払わないと、権限のない者が装備を誤った方法で使用する可能性があります。このような場合、ご自身または第三者が重傷を負ったり環境を汚染する危険があります。

注意

故障したバッテリーはただちに廃棄してください。バッテリーは子供の手の届かない所に置いてください。バッテリーを分解したり、燃やしたりしないでください。

注意

バッテリーは各国の技術法規に従って廃棄するか、ヒルティへ返送してください。



本体の大部分の部品はリサイクル可能です。リサイクル前にそれぞれの部品は分別して回収されなければなりません。多くの国でヒルティは、古い電動工具をリサイクルのために回収しています。詳細については弊社営業担当またはヒルティ代理店・販売店にお尋ねください。



EU 諸国のみ

本体を一般ゴミとして廃棄してはなりません。

古い電気および電子工具の廃棄に関するヨーロッパ基準と各国の法律に基づき、使用済みの電気工具は一般ゴミとは別にして、環境保護のためリサイクル規制部品として廃棄してください。

11 本体に関するメーカー保証

保証条件に関するご質問は、最寄りのヒルティ代理店・販売店までお問い合わせください。

12 EU 規格の準拠証明 (原本)

名称 :	アングルグラインダー
機種名 :	AG 125-A22
製品世代 :	01
設計年 :	2011

この製品は以下の基準と標準規格に適合していることを保証します : 2006/42/EG、2004/108/EG、2006/66/EG、2011/65/EU、EN 60745-1、EN 60745-2-3、EN ISO 12100.

Hilti Corporation、Feldkircherstrasse 100、
FL-9494 Schaan



Paolo Luccini
Head of BA Quality and Process
Management
Business Area Electric Tools &
Accessories
01/2012



Jan Doongaji
Executive Vice President

Business Unit Power
Tools & Accessories
01/2012

技術資料 :

Hilti Entwicklungsgesellschaft mbH
Zulassung Elektrowerkzeuge
Hiltistrasse 6
86916 Kaufering
Deutschland



Hilti Corporation

LI-9494 Schaan

Tel.: +423/234 21 11

Fax: +423/234 29 65

www.hilti.com

Hilti = registered trademark of Hilti Corp., Schaan
Pos. 8 | 20150316

